

## 現代人類学のキーワード集

哲学や思想関連書を主に手がけている以文社から『Lexicon 現代人類学』（B40判・223頁・2300円＋税・奥野克巳／石倉敏明編）が刊行された。

テロリズム、金融危機、気候変動に伴う環境破壊——地球規模の危機が迫る今、新たな知の在り方が求められている。こうした現代の諸問題に対して人文・社会科学にはいかなる応答が可能なのか。

こうしたなか前世紀末から続く長い停滞と自省の期間を経て、人類学は「新たな使命を得て蘇り、他分野との積極的な理論的・実践的交流をもとに「現

代」と再び対峙しはじめていく」という。

本書は、このように新たな課題に挑む現代人類学の思想と実践を50項目のキーワードで辿る試み。

ポストコロナアルの時代には「人類学の政治性を暴き立てる方向へとしだいに歩みを進めていった。このように、人類学が内向きに猛省をつづけた時代のことを、今日、「再帰人類学」の時代と呼ぶ」という。

本書は、この「再帰人類学」を冒頭に「ホモ・サピエンス」まで50のキーワードをそれぞれ4ページを費やして解説。いわば現代人類学の「読む」キーワード集といった趣き。

そのキーワードは、レヴィ・ストロースの構造主義、存在論をめぐる論考、今日の民族誌、自然／人間、野生の思考とポケモン、ケア、捕食、可食性の人類学、生命、岩田慶治のアニミズム論、考古学と人類学、アナキズムと贈与、アクティヴィスト人類学、交差する現代思想と

文化人類学、虚構と実在、神話学の現在、心理学と人類学、環境人文学、霊長類学と人類学、複雑だった人類の進化…。

編者曰く。「それぞれの項目は、執筆担当者の研究と体験を踏まえた独自の視点や、テキストの外へと広がる鋭い切り口が見えることを重視している」。

以文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-12 ☎03-6272-6536